2021 年度事業活動報告
2022 年度事業計画

特定非営利活動法人

海外に子ども用車椅子を送る会

～　ご挨拶　～

日本において、肢体不自由の子ども達は10～30万円もする高価で高性能の車椅子に乗ることができます。90%もの公的補助金が出るお蔭で、肢体不自由児を抱える多くの親は、軽微な自己負担で済むのです。私自身も障害児をもつ親の一人として、この恵まれた環境に大変感謝しています。

ところが、子どもが成長すると車椅子は相対的に小さくなり、2～3年で乗り換えねばなりません。そうして高価な車椅子は、廃棄処分の運命におかれるのが現状です。私の子どもは脳性麻痺ですが、こうした買い替え時期を迎えるともったいなくて壊れてもいない子ども用車椅子を捨てることができず頭をかかえていました。捨てるには車椅子の状態があまりに良いのです。

日本では捨てられてしまう運命の車椅子は粗大ごみ扱いでしょうが、海外の肢体不自由の子どもにとっては宝物です。家から出ることができない生活に苦しんでいる子ども達を一人でも救い、自由に動き回れる移動手段を提供したいと思います。高価な車椅子に乗ることは彼等にとっては夢のような話なのです。障害のある子ども達が車椅子を手に入れて行動範囲を広げ、地域の人々と広く交流し、お互いの理解を深めて豊かな人生を送っていって欲しいと願っています。

どうか、多くの方々にこのような日本と海外の現状をご理解いただき、ご支援、ご協力を賜りたいと思います。体を動かせない子ども達にとっての「夢の乗り物」、これが子ども用車椅子です。私は一台でも多くの子ども用車椅子を日本から送り出し、彼らの笑顔を見てみたい、そのような姿を頭に描きながら、力の限り日々活動に取り組んでいます。

会長　森田 祐和

2021 年度事業報告

はじめに

昨年度（2020 年度）は、コロナ禍により車椅子の収集台数が大きく落ち込みました。その反省から、機会あるごとに支援学校などに車椅子提供の声かけを行ったことで、2021 年度は収集台数が計画を大きく上回りました。しかしながら、当会活動の柱である車椅子の清掃・整備・安全確認作業は大人数での集まりができないために、再生できた車椅子の台数は極めて少ない結果となりました。このため、車椅子を整備して発送するのではなく、未整備のままで受け取ることができる海外パートナーに送ることに方針を変えたことで、送付台数は計画を上回ることができました。

また、2021 年度は 8 月にパラリンピックが開催され、それをきっかけにガーナ、ベトナムのパラリンピック選手に車椅子を贈呈することができました。これは、当会にとってこれまでにない贈呈先となりました。

１．車椅子収集事業

肢体不自由児が通う特別支援学校や療育施設などの PTA の保護者や自立支援活動部の先生方の協力をいただき、今年度は、首都圏の特別支援学校から 515 台の提供を受けました。個人からの提供も含めて 2021 年度の全収集台数は 559 台で、前年比 172%の大幅増となりました。これは、提供学校数が昨年の 20 から 35 に増加したことがその主な要因です。

2021 年度の車椅子の収集台数

都・県	(学校数)	2018 年	(学校数)	2019 年	(学校数)	2020 年	(学校数)	2021 年	(学校数)
東　京	(24)	180 台	(10)	143 台	(10)	116 台	(10)	178 台	(14)
神奈川	(19)	124 台	(9)	131 台	(7)	37 台	(4)	159 台	(11)
埼　玉	(10)	146 台	(5)	105 台	(5)	10 台	(1)	105 台	(6)
千　葉	(6)	119 台	(5)	67 台	(3)	69 台	(5)	73 台	(4)
小　計	(59)	569 台	(29)	446 台	(25)	232 台	(20)	515 台	(35)
その他学校、団体等		―	―	30 台	―	59 台	―	12 台	―
個　人		―	―	6 台	―	34 台	―	32 台	―
総合計		569 台	―	482 台	―	325 台	―	559 台	―

（「小計」は首都圏の特別支援学校からの提供台数　学校数は 2022 年 3 月全国障害学生支援センターより）

2021 年度の首都圏エリアの特別支援学校からの車椅子の提供（上記表中の「小計」を参照）は、台数と提供学校数の双方で、その数字が増加しました。台数は前年比 2.2 倍です。首都圏における特別支援学校数は全体で 59 校ですが、そのうちの 35 校から車椅子の提供がありました。この学校数は過去最高となりました。

一方、首都圏以外の学校や団体からの提供と近年着実に増えている個人や一般の人からの提供は 50 台弱で前年比 50%でした。今後も皆様からの継続的な車椅子の提供をお願いします。（提供方法は当会のホームページをご覧ください　http://kaigaikurumaisu.org/ ）

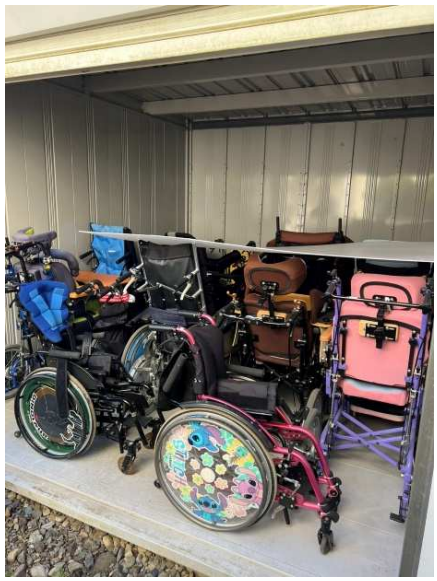
○車椅子収集の様子

＜松戸特別支援学校＞

積み込みに先立って、車椅子には提供してくれる「学校名」と「車椅子管理番号」のシールをすべての車椅子に貼りました。雨の中にもかかわらず、松戸特別支援学校の先生方と PTA の役員の皆さんが、トラックへの積み込みを手伝ってくださいました。最後にトラックを見送るときには「タイの子どもたちに届け！」と掛け声を出して記念撮影に応じてくれました。

（2021 年 5 月　38 台を引き取り）

＜平塚養護学校＞



平塚養護学校から引き取りました。引き取り台数が急増して当会の拝島倉庫があふれたために、急遽、日の出町に臨時倉庫を借りてそこに格納しました。有難いことに次々と車椅子の提供も申し入れがあり、臨時倉庫もすぐに満杯となる状況でした。

（平塚養護学校からは、2021 年 11 月、12 月の 2 回で 43 台を引き取りました。）

２．車椅子整備事業

コロナ禍による「緊急事態宣言発令」や「蔓延防止措置」などで例会活動が大きく制限されました。2021 年 4 月から「ミニ例会」の再開が可能となりましたが、その後も休止を余儀なくされることがあり、清掃・整備ができた台数は極めて低調でした。これは、ミニ例会の参加者人数が 10 人以下と少ないことと、その開催回数も少ないことが原因です。コロナ以前は 50～60 人態勢で 30 台／月の整備が可能でしたが、ミニ例会では 5～10 台／月程度の実績にとどまりました。

○整備作業の様子

ミニ例会活動の参加者は、相模女子大チーム、ベトナムチーム、に絞りました。5 名程度の編成で、日程をそれぞれのチームに打診しながら開催しました。

参加者の総数は、年間延べ 92 名となりました。昨年度の 68 名より若干の増加でした。また、整備台数もパラグアイ向けの一部となった 50 台でした。これは昨年度の 70 台を下回りました。なお、パラグアイには特定非営利活動法人青少年自立援助センター（代表理事　河野 久忠 氏）の協力を得て 90（当会の 50＋自立援助センターの 40）台を発送することができました。

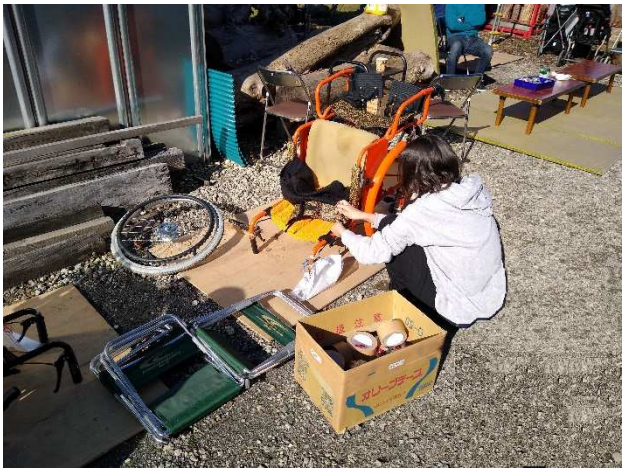
例会参加票	
参加日（Date）	2021/4/11
名前（NAME）	[redacted]
所属（Group）	ベトナム
連絡先（TEL）	080-[redacted]-[redacted]
体　温 (Body temperature)	36.5°

活動前にアルコール消毒と検温を行い、参加票に記入をしてもらいます。万が一、例会活動でコロナ感染が確認した場合は、緊急連絡を電話で行います。

（左）相模女子大チームの皆さんが車椅子をひっくり返して徹底的に汚れを落とします。
（右）ベトナムチームの整備作業の様子です。みなさん、ベテラン整備士です。密にならないように作業間隔をあけています。

（左）ボランティアが集まる前にスタッフが車輪とキャスターを取り外します。外した部品がなくならないように透明の部品箱に入れて管理します。

（右）相模女子大チームに車輪を取り外した車椅子を徹底的に磨いてもらいます。車輪を外しての清掃は「**新品同様に！**」を目指しての初めての取り組みです。車輪を外して清掃を行うと、それまで手が届かなかった場所の汚れもきれいに落とすことができました。清掃に時間がかかりますが、可能な限りこうした方法での清掃を定着していきたいと考えています。



車輪とキャスターを外す作業を相模女子大チームのメンバーにも体験してもらいました。最初は手こずりましたが、スタッフのサポートで車輪やキャスターを外すことも元に戻すこともできるようになりました。

いつも楽しい昼食です。
外での食事は美味しいです。

今日もお疲れさまでした。

〇重量計の改善ができました。

車椅子の重量測定のために、車椅子を載せる板を従来（写真左）の不安定な木製テーブルから、少し大きめで測定器本体に固定される鉄板（写真右）のものに新しくしました。安定した状態での測定が可能となり作業がスムーズにできるようになりました。

2021 年度におけるミニ例会の月別開催状況

開催月	2021 年									2022 年			年間合計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
回数	1	0	0	2	0	0	4	3	4	0	0	1	15

コロナの影響で 12 か月のうち、半年の 6 か月はミニ例会を開催することができませんでした。そのため、整備できた車椅子の台数も 60 台程度です。これは、近年の実績としては最も低い数字となりました。

３．車椅子発送事業

＜ガーナへの発送＞

東京オリンピック・パラリンピックの組織委員会メンバーである秋吉･ファビオ氏と同じくガーナの事務総長　Peter Adjei 氏の発案でガーナへの車椅子の贈呈が実現し、車椅子のトラックへの積み込みが 2021 年 11 月 30 日に行われました。積み込み場所は、NPO 法人希望の車いすが活動拠点としている聖書キリスト教会東京教会です。ここから、ガーナ大使館が所有する倉庫に運び、他の荷物と共にコンテナーに積み込まれ、ガーナに向けて 2022 年 1 月 12 日に出港しました。

（左）聖書キリスト教会東京教会の全景です。教会の 5 階が NPO 法人希望の車いすの活動拠点です。
（右）教会のロビーでトラックへの積み込みを待つ当会提供の車椅子です。

（左）NPO 法人希望の車いす提供の大人用車椅子 20 台、当会の子ども用車椅子を 20 台積み込みます。
（右）普通トラックと軽トラックの 2 台に積み込んで、倉庫に向けて出発しました。

倉庫に向けて出発した 2 台のトラックを、関係者全員で見送りました。
ガーナ人のドライバーが「必ずガーナに届けます。安心してください。」と言葉を残してくれました。

＜パラグアイへの車椅子の積み込み＞

パラグアイ向け車椅子をフォークリフトでコンテナーに積み込みます。積み込み完了の様子をパラグアイ大使が確認します。大使はこのためにわざわざ来てくれました。

（左）コンテナー積み込みには、当会をいつも支援してくれている昭島中央ロータリークラブの皆さんが応援に駆けつけてくれました。パラグアイ大使と森田会長とコンテナーの前で記念撮影です。
（右）パラグアイ大使からお礼の品を受け取る森田会長です。

2021 年度寄贈実績（2021 年 4 月～2022 年 3 月まで）

タイ　RICD(＊)	2021 年	7 月	175 台	Rajanagarindra Institute of Child Development
マレーシア(＊)	2021 年	8 月	90 台	Aleps Dream Factory(ADF)
ベトナム	2021 年	9 月	5 台	ベトナム　パラリンピック選手団
ガーナ	2021 年	11 月	20 台	ガーナ　パラリンピック委員会
マレーシア(＊)	2022 年	2 月	95 台	Aleps Dream Factory(ADF)
パラグアイ	2022 年	3 月	90 台	アスンシオン・ビラモラ・ライオンズクラブ
合計			475 台	

（＊）タイ、マレーシアには車椅子を未整備のまま送付しました。

贈呈した車椅子 475 台のうち、360 台は未整備のままパートナーに送りました。７６%の比率です。コロナ禍で大人数が集まることができないため、清掃・整備・安全確認の作業を行うことができませんでした。そこで、未整備で送っても自前でその作業を行うことができるパートナーに送ることを優先して行いました。

４．活動広報事業

贈呈先の現地での私たちの活動の様子や海外の受入団体と子ども達の感謝の気持ちを具体的に支援者の方々にお伝えするために、「活動報告レポート」を発行しています。年間計画では 4 回の発行を目指していましたが、コロナ禍による活動制限のために２回の発行（第 25、26 号）実績となりました。

また、ホームページで当会の活動の様子をタイムリーに広報するよう努めていますので、随時ご参照ください。　http://www.kaigaikurumaisu.org

さらに、当会の事業内容を紹介する冊子「世界の子どもたちに動ける自由と喜びを」を発行しています。当会の考え方に始まり、具体的な活動内容について写真や図を使い説明しています。冊子が必要な方は事務局へご連絡ください。

冊子の内容はホームページ「フリー ペーパー」にも掲載しています。ダウンロードして印刷することも可能です。

５．海外の子どもたちからの絵画集の作成

当会が送った車椅子を受け取った海外のたくさんの国の子どもたちが日本のみなさんに感謝の気持ちを伝えたいと、200 枚以上の絵を描いて送ってきてくれました。その絵と現地の子どもたちの写真を集めた画集を製作しました。

2021 年 2 月に地球市民賞を当会が受賞し、その記念事業としての画集です。言葉の壁を乗り超えて喜びや感謝の気持ちが絵や写真からよく伝わってきます。完成した画集を特別支援学校や、これまで寄付をしてくださった多くの皆様に郵送で届けました。

ホームページでも画集を見ることができます。是非ともご覧ください。
（http://kaigaikurumaisu.org/support/pictures/）

６．財務状況について

当会が運送業者のトラックを手配して車椅子を特別支援学校から収集します。それらを整備し、海外へコンテナーで送る国内及び海外輸送にかかる費用などを計算すると、届ける国への距離にもよりますが、1 台平均約 1.4 万円かかります。それらの費用は当会の活動に賛同いただく会員の会費と支援者（個人及び団体）の寄付金と民間助成や公的助成の支援資金で賄っています。

2021 年度の当会の財務状況

2021 年度の財務状況は、例年とは違った状況となりました。年度当初の見込みとしてコロナ禍により収入は厳しくなると予測していました。継続的に支援をしてくださる大企業の支援者からは、「今年は苦しいことが予測されるので例年の倍額を送ります」と寄付金を増額してくれていました。しかし、それでも 2021 年 11 月現在で、収入は計画の 19%と低調な状況にありました。

一方で、事業推進にかかる費用は計画の 60%程度まで進行していました。以降の贈呈機会や台数を抑えて支出増加を抑えることは可能でした。しかしながら、その時点での収入状態では、当会の活動を 2021 年度は行うことができたとしても 2022 年度以降も継続して行うことができなくなる可能性がありました。言葉を換えれば「当会の存続の危機」に直面していたことになります。

そこで、可能な限りの経費削減を図ると同時に、2022 年 2 月に年度途中でしたが「財政的な緊急支援のお願い」を当会の支援者（会員、過去に実績のある寄付者、特別支援学校の先生方や PTA 役員の皆様）に出しました。そうしたところ、大きな反響がありました。東京在住の会員から、通常の 10 倍の寄付金が即座に届きました。そして、その他の多くの皆様からも多額の寄付金や会費納入がありました。この結果、最終的な 2021 年度の収入は、計画比の 136%と大幅な増額となりました。また、前年比でも 98%まで押し戻すことができ、ほぼ昨年並みの状態になりました。会費は、計画の 114%まで伸ばすことができました。

皆様からの緊急支援のおかげで、2022 年度以降も従来の車椅子贈呈活動を途切らせることなく継続できる見込みが立ちました。支援してくださった皆様に心よりお礼を申し上げます。

７．2021 年度のトピックス

7-1　最近の海外パートナーとの関係

当会が車椅子を送っている国には、信頼できるパートナーが存在します。それらのパートナーが車椅子の管理と子どもたちへの支援を実行してくれているのです。当会の活動にとって不可欠な存在と言えます。そこに変化が起きています。

〇ミャンマーの国立リハビリテーション病院

2021 年 2 月に起きたクーデターで、それまでの担当者と連絡がつかなくなりました。2020 年 10 月に東京港から出たコンテナー船が到着したのは 2021 年 1 月です。入管手続きで手間取っている間にクーデターが起きました。多くの善意でミャンマーの４つの病院に届けられるはずだった 180 台の車椅子の行方が分からなくなっています。子どもたちに届くのを祈るばかりです。

〇コロナ禍以降で変化

ほとんどのパートナーが車椅子の受け取りはできないと回答してきました。また、海上輸送も混迷を深めているため、コンテナーの手配がほぼできない状態です。輸送コストの高騰も当会にとっては困難な問題です。更に当会の活動の主体である清掃・整備活動がコロナ禍のために思うようにできません。受け取り手がいても当会が、整備して車椅子を準備することができません。

そこで、未整備でも受け取ることができるタイ、マレーシアに未整備のままで送りました。この選択ができるのは車椅子の清掃や整備、修理ができる技術力をパートナーが持っている必要があります。そのようなパートナーは上記の 2 か国に限られます。

それ以外の国のパートナーとのコミュニケーションの機会が激減しています。理由は、コロナ禍だと想像します。「次にいつ頃、何台くらいの車椅子を送りますか」といったやり取りができないのです。多くのパートナーが「それどころではない」といった状況のようです。このため、当会のホームページの「今後の贈呈予定」は確定情報がほとんどありません。

○タイで２番目のパートナー・RICD

これまで、当会はタイに対して APHT というパートナーに車椅子を送ってきました。その台数は 2019 年までで 605 台です。しかし、2020 年以降はコロナ禍で同パートナーは活動ができなくなり、贈呈も現在は途絶えています。そこで、車椅子を整備しなくても受け取ることができるパートナーを探したところ、「NPO 法人希望の車いす」を運営する谷理事長の紹介で Rajanagarindra Institute of Child Development(RICD)という福祉団体につながりました。

RICD は、日本製の車椅子は高品質であり中古品といえども十分に使用できると理解している、自らが車椅子を整備する能力を備えている、子どもたちに車椅子を供与するに当たって、その子の体に合っているかを確認できる、車椅子が故障したときにすぐに修理できる体制を確立している、子どもの成長に伴い車椅子が体に合わなくなった場合は、サイズの大きな車椅子を供与することができる、合わなくなった車椅子は別のサイズが合う子どもに供与することができる、などパートナーとして大いに信頼できる団体です。

コロナ禍で清掃・整備を行うことが難しい当会にとって、未整備で送ることができるパートナーはありがたい存在です。また、RICD はタイ王室の支援を受けた団体でもあるので安心してタイの子どもたちへの車椅子を託すことができます。2021 年 7 月に 175 台の車椅子を RICD に届けました。その後は受け取った車椅子を、整備し車椅子のサイズと体の大きさが合致する子どもたちに届けてくれています。

立川の倉庫でコンテナーに積み込み東京港からタイに向けて１７５台を送り出しました。

（左）RICD の車椅子プロジェクトチームメンバーによるコンテナーからの車椅子の荷降ろし
（右）車椅子が到着して喜ぶプロジェクトチーム

○パラリンピックをきっかけにした車椅子贈呈

海外に送ることが困難な状況ではありましたが、パラリンピックをきっかけにガーナとベトナムの選手団に送ることができました。どちらも国の代表であるパラリンピック委員会が関与してくれたおかげで輸送等の問題はなく、着実に相手国に届きました。

＜ベトナム選手団への寄贈＞

2021 年 8 月の東京オリンピックに続いて、パラリンピックが 8 月 24 日～9 月 5 日の間に開催されました。161 の国・地域並びに難民選手団のパラリンピックへの参加があり、当会が多くの車椅子を送っているベトナムからも選手団が来日しました。その選手団から、当会のボランティアで車椅子整備の中心メンバーであるベトナム出身のザンさんを通じて車椅子提供の要請が届きました。

（左）選手村で当会からの車椅子に乗って記念撮影する選手です。真ん中の選手が、競技種目パワーリフティング男子 49 キロ級（運動機能障害）で銀メダルを獲得したレ・バン・コン選手です。

（右）当会の倉庫に 5 台の車椅子を引き取りに来たザンさん（写真の一番左の男性）とパラリンピックのボランティアの人たちです。

＜ガーナ選手団への寄贈＞

2021 年 8 月に開催された東京オリンピック・パラリンピックの組織委員会メンバーである秋吉・ファビオ氏とガーナパラリンピックチーム事務総長　Peter Adjei 氏が東京大会で知り合いとなり「ガーナのパラリンピック・アスリートのために車椅子を贈ることはできないか」と考えました。そのアイデアに対して、ＮＰＯ法人希望の車いすと当会が連携して大人用 20 台、子ども用 20 台を送りました。4 月には無事にガーナに到着したと連絡がありました。

ガーナとオンラインで贈呈式を開催しました。右から 2 番目の若者が今回の発起人の一人である秋吉・ファビオさんです。

7-2　ヨーロッパのビジネス誌に当会が紹介されました

当会が活動を始めたきっかけや活動の様子について「EUROBIZ Japan」2021 年 8 月号に掲載されました。「EUROBIZ Japan」は欧州商工会議所連合（EBC）の公式月刊ビジネスマガジンです。日本国内で最も閲読者数の多い英字ビジネス誌で、その月間推定読者数は 70,000 人です。同誌の記者が、当会の存在を知りぜひとも記事で当会を紹介したいと依頼が事務局に入りました。会長の「当会について日本人ばかりでなく、諸外国の人に知ってもらうのはいいことだ」という言葉を受けて寄稿しました。

当会に興味を持ち、記事の掲載を進めてくれた同誌の記者に感謝するとともに、同誌を通じて、当会の活動が内外に広く知れ渡り、支援の輪が広がることを期待します。

Sharing the joy of mobility

The Volunteers Group to Send Wheelchairs to Overseas Children

「EUROBIZ Japan」2021 年８月号の表紙
この雑誌の 37 ページに左記の写真の記事があります。

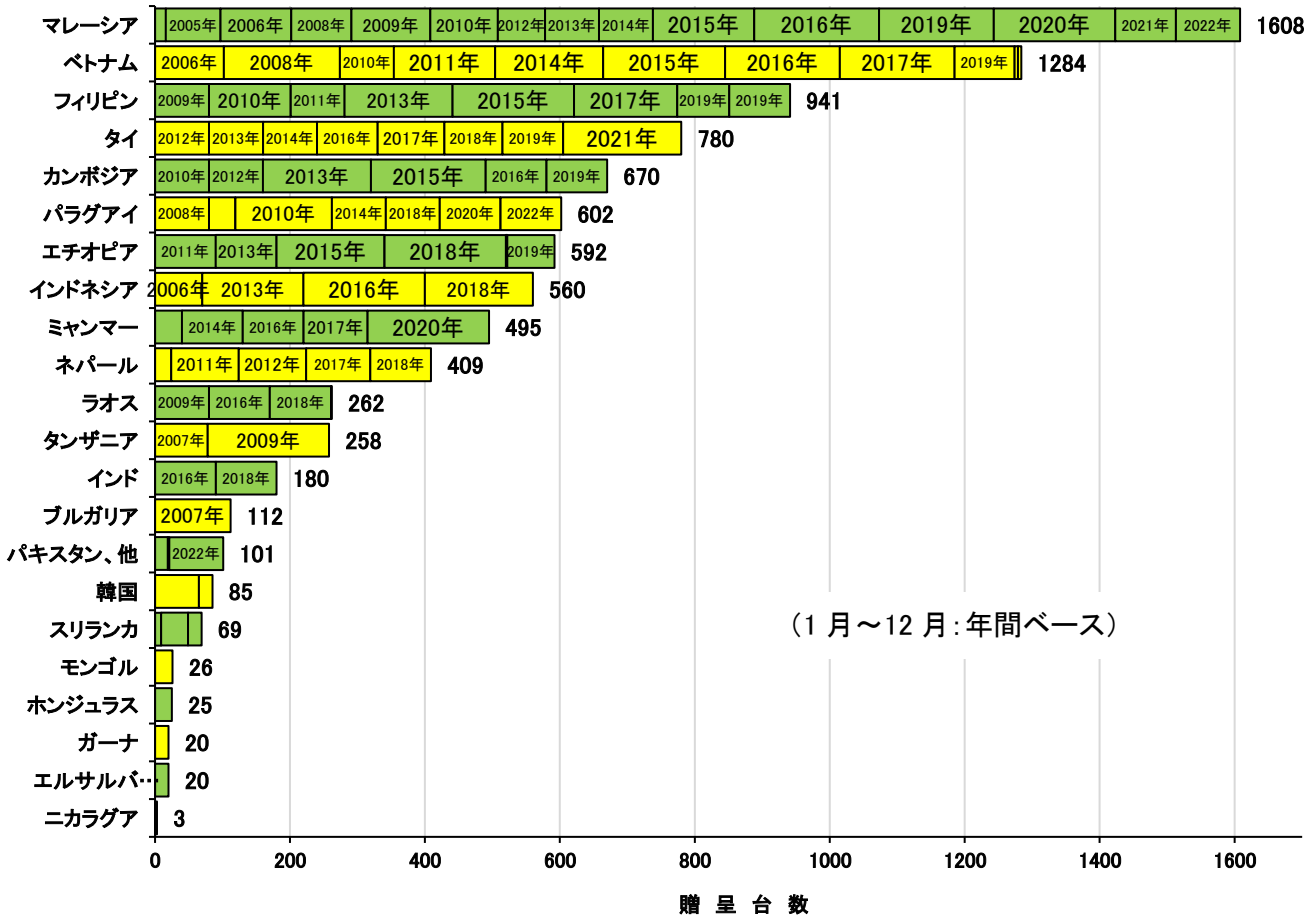
森田会長と車椅子を受け取ったエチオピアの笑顔の子どもが載った当会紹介の記事のページです。「**Sharing the joy of mobility（移動できる喜びを分かち合う**」と題して、当会の活動概要を紹介しています。記事全文はホームページから見ることができます。（https://wp.me/pbgQI2-1ra）

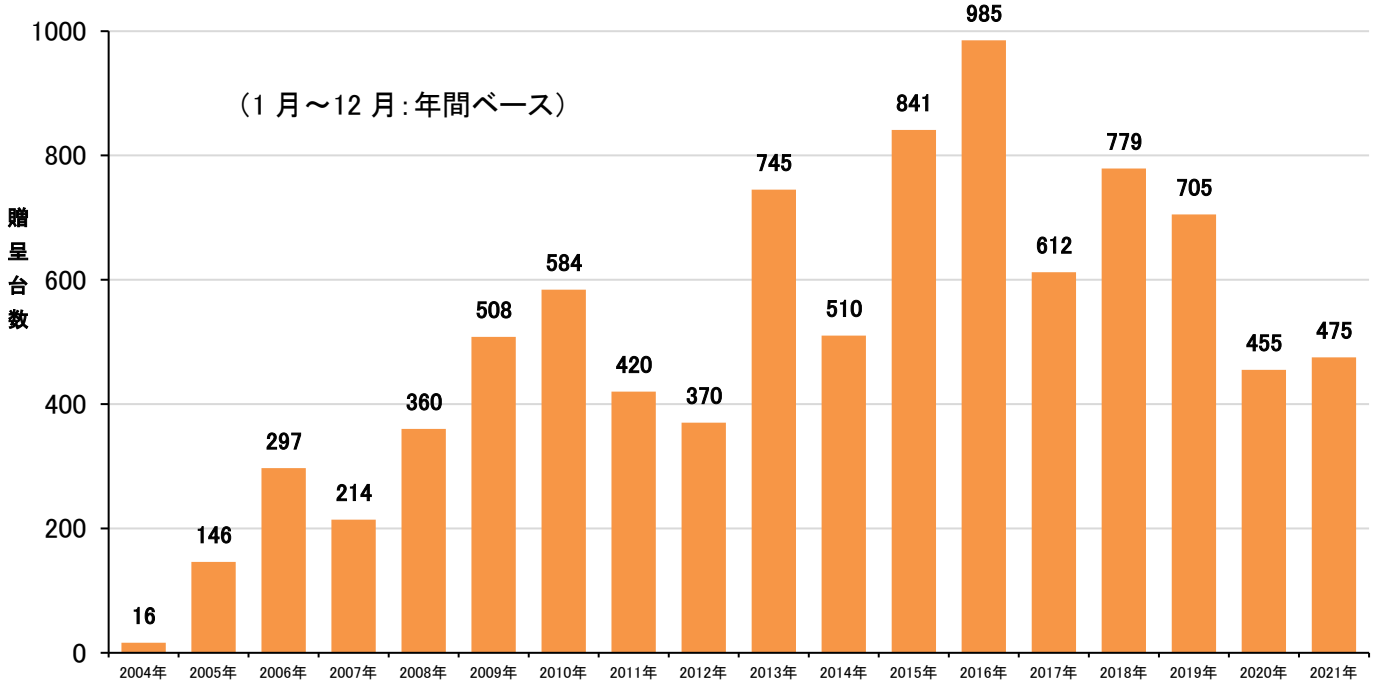
雑誌の写真の子どもはメサッド・モハメッド君です。（撮影当時４歳、男児）母親と、教員の父親、妹がいます。当日は離れて暮らす母方の祖母が来ていました。インタビュー中に母親が涙を見せることがあって、祖母が元気づけていて印象深かったです。車椅子のおかげで母親にゆとりが生まれていると喜んでいました。
（写真撮影は 2016 年 2 月）

NPO 法人

海外に子ども用車椅子を送る会

贈呈実績　25 ヶ国　9,102台　（2022 年 4 月末現在）





2022年度　事業活動計画

１．車椅子収集事業

首都圏特別支援学校 PTA の定期的かつ継続的な収集協力を得て、必要数を確保する。ただし、当会の財政予測から今年度の贈呈可能台数は前年比で減少する見込みである。そうした状況を鑑み収集目標は昨年より少ない 400 台（前年比 73%）以上を目指す。

２．車椅子整備事業

・2022 年度も引き続きコロナ禍により例会活動への制限がかかると予測される。少人数でのミニ例会を開催できると判断した場合に参加者を募る。その数は 1 回あたり 5～10 名程度に制限する。そうしたミニ例会を、2 回／月の頻度で開催することを目指す。

・ミニ例会での目標の整備完了台数を確保できない場合は、作業の外部委託も検討する。

３．車椅子発送事業

2022 年度もコロナ禍の影響があると推測される。贈呈台数は 250～300 台程度にとどめ、贈呈国数も 2～3 か国とする。

４．活動広報事業

・「活動レポート」は年間で昨年度と同様 1～2 回の発行を目指す。

・ホームページではタイムリーなお知らせやトピックスにより当会の活動の様子を周知する。

５．活動資金確保活動

・広報活動の拡充による会員数の増加を図る。

・新たな民間助成、地域慈善団体等への申請により寄付金確保の増加を目指す。

本年度も、一台でも多くの子ども用車椅子を海外の子ども達に届けたいと思います。
皆様のご支援をよろしくお願いします。

過年度実績と2022年度収支計画（4月1日～3月31日）

（単位：円）

項　目	2020年度		2021年度		2022年度	
	実　績	前年比	実　績	前年比	計　画	前年比
前年度繰越金	4,273,290	100%	6,761,954	158%	9,646,109	143%
収入の部						
会費収入	350,000	100%	400,000	114%	350,000	88%
公的助成金収入	0	0%	0	―	0	―
民間助成金収入	3,152,904	105%	2,474,600	78%	2,500,000	101%
寄付金収入	2,566,027	128%	5,081,762	198%	2,500,000	49%
利息収入	26	130%	46	177%	30	65%
雑収入	2,015,270	―	0	―	0	―
収入総額	8,084,227	110%	7,956,408	98%	5,350,030	67%
支出の部						
1．事業費						
車椅子収集事業費	496,477	71%	637,380	128%	500,000	78%
車椅子整備事業費	1,405,506	100%	1,201,541	85%	1,200,000	100%
車椅子発送事業費	2,950,950	66%	2,363,631	80%	2,500,000	106%
活動広報事業費	227,827	91%	489,455	215%	250,000	51%
事業費合計	5,080,760	74%	4,692,007	92%	4,450,000	95%
2．管理費						
事務消耗品費	11,061	138%	20,664	187%	20,000	97%
消耗品費	58,482	167%	9,895	17%	10,000	101%
水道光熱費	0	―	0	―	0	―
旅費交通費	49,666	248%	17,894	36%	20,000	112%
支払手数料	36,530	244%	34,592	95%	35,000	101%
交際費	26,850	134%	27,180	101%	25,000	92%
支払保険料	125,260	106%	58,340	47%	80,000	137%
通信費	34,050	227%	36,759	108%	25,000	68%
複写費	71,740	143%	92,034	128%	60,000	65%
会議費	72,228	103%	14,758	20%	20,000	136%
諸会費	0	0%	0	―	0	―
雑費	28,936	145%	68,130	235%	20,000	29%
管理費合計	514,803	138%	380,246	74%	315,000	83%
総支出額	5,595,563	77%	5,072,253	91%	4,765,000	94%
次期繰越金	6,761,954	154%	9,646,109	143%	10,231,139	106%

NPO法人

海外に子ども用車椅子を送る会

活動レポート

2021年10月 第25号

タイの新しいパートナーRICDの障害のある子どもたちへ

2021年7月 未整備で175台

タイのRajanagarindra Institute of Child Development(RICD)という新しいパートナーに１７５台の車椅子を7月20日に東京港から発送しました。RICDについては、二年ほど前から「NPO法人希望の車いす」を運営する谷理事長から「RICDに子ども用車椅子を送ってほしい」と依頼を受けていました。RICDの要望で早期に入手したい、未整備のままで送ってくれればRICDで整備する、海上輸送運賃はRICDが負担するとのことでしたので、１７５台を未整備のままRICDに送りました。タイ国内のコロナ禍や輸入上の手続きなどの理由で遅れが出て、最終的に８月２７日（金）にRICDの拠点に到着しました。

RICDは、日本製の車椅子は高品質であることを理解していて、自らが車椅子の整備する技術を備えている、子どもたちに車椅子を供与するに当たって、その子の体に合っているかを確認する、車椅子が故障したときにすぐに修理できる体制を確立している、子どもの成長に伴い車椅子が体に合わなくなった場合は、サイズの大きな車椅子を供与する、また、子どもの体に合わなくなった車椅子は、他のサイズが合う子どもに供与する、こうしたことを実践している優れた福祉団体です。

車椅子が到着して喜ぶプロジェクトチームの記念撮影と車椅子の積み下ろしの様子

工房に並んだ車椅子

マレーシアの障害のある子どもたちへ

2021年８月 未整備で９０台

サイド氏

マレーシアの長年のパートナーである「Aleps Dream Factory (ADF)」のサイド氏から、「コロナ禍で移動することはできないが、工場で未整備の車椅子を整備することはできるので送ってほしい」と連絡があり、２０２１年８月２６日の午前に東京港を出る船で未整備の車椅子９０台を送りました。９月１１日にはサイド氏の倉庫に到着しました。

サイド氏は自ら車椅子を整備できる工場を立ち上げ、必要な機械はすべて自費でそろえ、マレーシア全土において連絡があれば、車椅子を届けるために力を注いでいます。１５年間に渡り、1,５００台以上の車椅子を受け入れてくれています。子どもたちへの車椅子の重要性に気づき、自発的に工場を建設して、マレーシア製の車椅子を製造するまでに成長を遂げたサイド氏の情熱には頭の下がる思いです。

ベトナム・パラリンピック選手に車椅子５台を贈呈

2021年９月 ５台

２０２１年８月の東京オリンピックに続いて、パラリンピックが８月２４日～９月５日の間に開催されました。１６１の国・地域並びに難民選手団のパラリンピックへの参加があり、当会が多くの車椅子を送っているベトナムからも選手団が来日しました。その選手団から車椅子を５台贈呈してもらいたいとの要望が届きました。日本製の車椅子は高品質なので、この機会に日本製を無償でもらうことができれば大変うれしいとのことでしたので快諾しました。早速、選手団をサポートするボランティアのグエン ビンさんが、当会の拝島倉庫に車椅子を引き取りに来ました。当会が保管している車椅子は、子ども用が主なので選手の体に合うのか心配でしたが、幸い倉庫には大人用が数台あり贈呈した５台の車椅子は問題なく使用できるとのことでした。

車椅子に乗るベトナム・パラリンピック選手
真ん中の選手が銅メダルを取ったレ・バン・コン選手

成田空港で贈呈した車椅子に乗る選手を囲んで記念撮影です。
贈呈した車椅子に乗って選手たちは大変うれしそうでした。後列右側のブルーの服がグエンさんです

当会の詳しい活動内容はHPで　http://kaigaikurumaisu.org

NPO法人

海外に子ども用車椅子を送る会

活動レポート

2022年3月 第26号

ガーナ パラリンピック選手団に車椅子２０台を贈呈しました

2021年11月「希望の車いす」の大人用車椅子と共同で発送

ガーナ　Peter Adjei氏

２０２１年８月に開催された東京オリンピック・パラリンピックの組織委員会メンバーである秋吉・ファビオ氏とガーナ・パラリンピックチーム事務総長　Peter Adjei氏（写真右）が東京大会で知り合いとなり「ガーナのパラリンピック・アスリートのために車椅子を贈ることはできないか。パラリンピック選手を目指している子どもたちにも車椅子を贈ることはできないだろうか」と考えました。「ＮＰＯ法人希望の車いす」と当会にこの話が舞い込み、希望の車いすと当会の共同で大人用と子ども用の車椅子２０台ずつを贈りました。

右から2人目が本プロジェクトの発案者の秋吉・ファビオ氏

Zoomを使用して、現地ガーナのパラリンピック事務総長Peter Adjei 氏とアドアージイリ 市（ガーナ東部の都市）の義肢装具訓練学校の校長先生であり、ガーナ・パラリンピック委員 会の役員でもある Henry Larbi 氏が出席しました。また、日本側は、聖書キリスト教会東京教会に集まり、在日ガーナ大使館の Nana Kusi Magrabi 氏、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の秋吉・ファビオ氏、同委員会の小林氏、NPO法人希望の車いすの谷理事長、当会の森田会長、今回の会議室を提供してくれた聖書キリスト教会東京教会の尾山キャシー牧師、他の関係の皆さんが出席しました。　森田会長は贈呈式の挨拶で、当会からの子ども用車椅子を受け取るガーナの皆さんには「子どもの体にしっかりと合った車椅子を供与して欲しい」「永く車椅子を使ってもらうためにガーナでのメンテナンスをしっかりとやって欲しい」とお願いをしました。今回のガーナへの贈呈で、当会が車椅子を送った国は２５か国となりました。

マレーシア Aleps Dream Factoryに車椅子９５台を送りました

2022年2月 小型を中心とした車椅子と中古の自転車2台を発送

未整備のマレーシア向け９５台の車椅子と２台の中古自転車を積載した本船が、２月２７日に東京港を出ました。マレーシアのポートケラン港には３月中旬に到着する見込みです。これで同国に送った車椅子の総台数は１,６０８台となります。

マレーシアには、２０２１年８月に送った未整備の車椅子９０台に続いての発送です。今回は受け取り手であるサイド氏からの要望で、バギータイプを中心にできるだけコンパクトに折りたためる車椅子を送りました。マレーシアも車社会になっていますが、普及している車は小型車が中心なので手軽に折りたたんで運ぶことができる車椅子に人気があるとのことです。また、車椅子の配布も、必要とする子どもの家族が自分で引き取りに来られるのでサイド氏の配布の労力が大きく軽減されるのです。今回は、車椅子に加えてサイド氏の要望で中古の自転車を２台送りました。サイド氏は、自転車に車椅子を接続してリヤカーのような形で使うことを考えているとのことです。現地の子どもの実情に合わせて支援をしているサイド氏だからこその発想かもしれません。

パラグアイ アスンシオン・ビラモラ・ライオンズクラブに車椅子９０台を送りました

2022年３月 整備済み車椅子と子ども用日常品を発送

車椅子を積込んだコンテナーにパラグアイ国旗などを掲げて記念撮影です。

２０２２年３月１日、寒さが和らいだこの日に当会の活動である車椅子のコンテナー積込み作業にパラグアイのラウル・アルベルト・フロレンティン・アントラ駐日パラグアイ特命全権大使が立ち会ってくださいました。また、このパラグアイ・プロジェクトを支えてくれている昭島中央ロータリークラブの皆さんもコンテナー積込み作業に集まってくださいました。今回の車椅子の清掃・整備作業はコロナ禍のために１年半という長い時間がかかり、更に海上輸送の混乱も加わって当初の予定より大幅に遅れての出港となりました。今回の送付先は、パラグアイでの新たな受け取り手となるアスンシオン・ビラモラ・ライオンズクラブで、小児科、眼科など様々な医療機関や移動クリニックを運営しているグループです。5月初旬には到着の見込みです。大使から「いつもパラグアイに貴重な車椅子を送ってくれて有難う」とお礼の言葉をいただきました。なお、パラグアイへの海上輸送は、当会を継続的に支援してくれている Ocean Network Express Pte. Ltd.（ONE社）が無償で提供してくれています。また、同社はパラグアイの子どもたちに喜ばれる日常品も送りたいと毛糸の手袋や文房具を提供してくださいました。御礼を申し上げます。

一緒にコンテナーに積込んだ手袋や文房具

上記贈呈に当たって車椅子の提供をしてくださった学校です（他に個人からの提供もあります）

埼玉県立宮代特別支援学校	神奈川県立平塚養護学校	東京都立八王子東特別支援学校	さいたま市立ひまわり特別支援学校
東京都立多摩桜の丘学園	さいたま市立さくら草特別支援学校	東京都立府中けやきの森学園	東京都立鹿本学園特別支援学校
東京都立青峰学園	横浜市立上菅田特別支援学校	緑成会整育園　通所センター	千葉県立松戸特別支援学校
東京都立城南特別支援学校	あきる野市社会福祉協議会	千葉県立桜が丘特別支援学校	横浜市立北綱島特別支援学校
東京都立町田の丘学園	横浜市立若葉台特別支援学校	板橋むらさき愛育園	他の特別支援学校　（順不同）

当会の詳しい活動内容はHPで　http://kaigaikurumaisu.org

The Volunteers Group
to Send Wheelchairs
to Overseas Children
JAPAN

www.kaigaikurumaisu.org